

平成16年度になって、経済界では多少の希望が持てる明るさが見えて参りました。そのような世情の中にあつて、当建築士会は財政的なピンチに直面せざるを得なくなり、本年度は創立以来最も困難な時期に当たり、将来の問題を見据えた会の運営を余儀なくされております。このことをよくご理解頂き、士会の将来の為になお一層のご支援とご協力を切にお願い致します。なお本年度の事業計画の執行に当たっては、的を絞って重点的に次の項目を提案致します。

#### ① 会員増強

会の発展は会員の増強が基本であります。建築士の負うべき社会的な責任は非常に重大なものがあつます。現状は建築士に対する不信感が、実情以上に蔓延しているようであり、その信頼回復の為に、会員増強を図り集団の力による建築士の活動をアピールして、その存在価値を高める必要があります。特にCPD、専攻建築士制度を活用し、若年層建築士有資格者へ入会のための接触と対応は、全会員が考える課題だと思つます。

#### ② 建築士の日の事業（社会活動の推進）

最近、欠陥住宅のことがニュース等いろいろな場面で公開され、施主から、何もかも設計、施工の欠陥であるかのような印象が伝えられています。これらは、本来、施工監理及び維持管理も含めて考えられるべき問題であります。又、より広範な社会活動として、防災問題等多角的な取り組みを行いたいと思つております。

#### ③ 福岡まちづくり活動支援センターの活動

建物の価値観は私的財産であると同時に、国家としての財産であるとも考えられていることから建築物として、街として、安心、安全、環境を中心とした評価に変わりつつあります。いま改めて小さな一つ一つから前述の目的に向かって取り組みを始めたものであり、士会の社会貢献の事業として継続して執行したいと思つます。

#### ④ 継続能力開発（CPD）制度の推進と専攻建築士制度の検討

建築士が建築士として社会に対し、その存在価値を認識させる手段として最も必要にして重要なことは、自己能力の研鑽と啓発であり、それを客観的に評価させる制度であり、このことを社会にアピールしなければ建築士の存在が埋没しかねない現況から、既に平成15年度から実施されており、平成16年度以降、更に運営を充実させ、会員及び会員外に十分その主旨徹底を図り、且つ理解させるべくそのPRに力を入れ、これを契機にあらゆる機会を捉え会員増強をはかるべきであります。また専攻建築士については、その制度と目的意義を更に研究、討議を重ね、建築士の存在と価値を社会に訴える必要があります。

#### ⑤ 各種講習会の開催

会員の為の能力や知識向上の研修会や講習会を開催することは重要であります。その為の受講者動員計画が最も必要であり、三委員会（研修、法令、技術）が協調して、より効率の上がる方策を研究して頂き、それに基づいた取り組みを計って参りたいと思つます。

#### ⑥ 建築士試験業務の効率的運営

建築士の受験者は年々減少傾向にあり、本年度は受託料が激減しております。今後、インターネットによる申し込みが導入され、更に減少することは明らかであります。しかしながら、建築士制度の重要性を考え、この業務は実施してまいります。が、その実施に当たっては、会員のご協力によって適性かつ、効果的な運用を行い、経費の節減に努めなければならないと思つます。

#### ⑦ 会の運営と財政健全化の基本的方策の検討と推進

平成15年度の執行状況に比較し、予想される平成16年度の予算は厳しく並大抵の事では執行不可能であり、事務局体制の見直しと、組織の改編を余儀なくされます。従つて管理費の削減と、各委員会の効率的運営が必要であります。